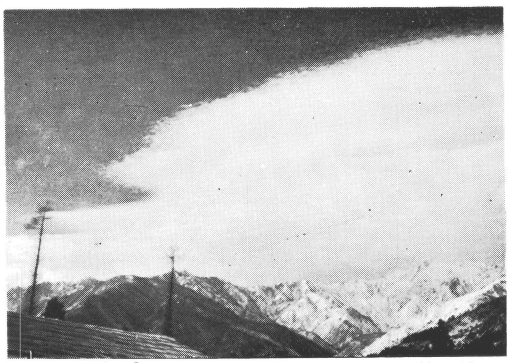
冬の朽子双子尾根の気象（本文247頁参照）　（大井正一写真）



No. 1 12月29日 細野にて，冬型の場合稜線を越える雲は Cc, Ac, Sc 三段構えになっている．

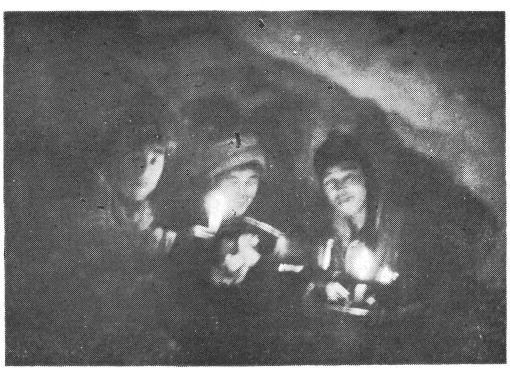
No. 2 12月29日 細野にて，主稜線が吹雪の場合 Ns, Sc, Ac が重なったいる．

No. 3 12月31日 中山沢，日がかげり始め雪崩の危険は去りつつある．

No. 4 中山沢の C1 建設，後に嶺山岳会がここで夜半雪崩に襲われて2名を失った．

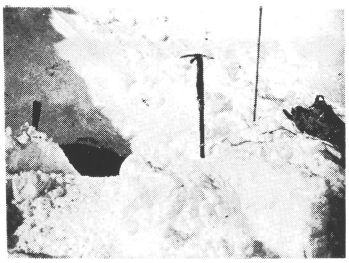
No. 5 1月1日 C1にて，寒冷前線通過頭上を越えた雲が庇の様に見え，雲海の眺めは正に隠されんとしている．

No. 6 吹雪の中の C3 雪洞構築

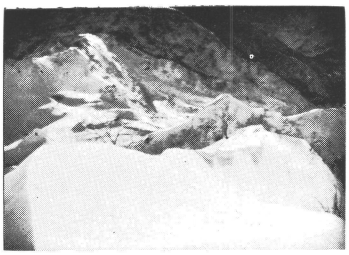


No. 7 1月2日，足かけ3日の雪洞生活は辛かった．

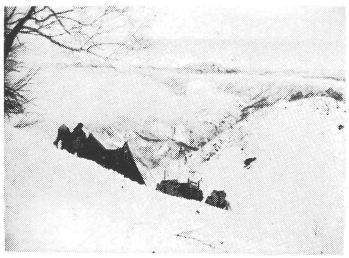
No. 8 1月3日 C3，上層の谷通過のため風向が反対になり，雪洞の入口から粉雪が吹き込んで中迄埋めた．



No. 9　1月4日 C3 雪洞の朝，3日間除雪し続けたがそれでも完全に埋められる大雪.

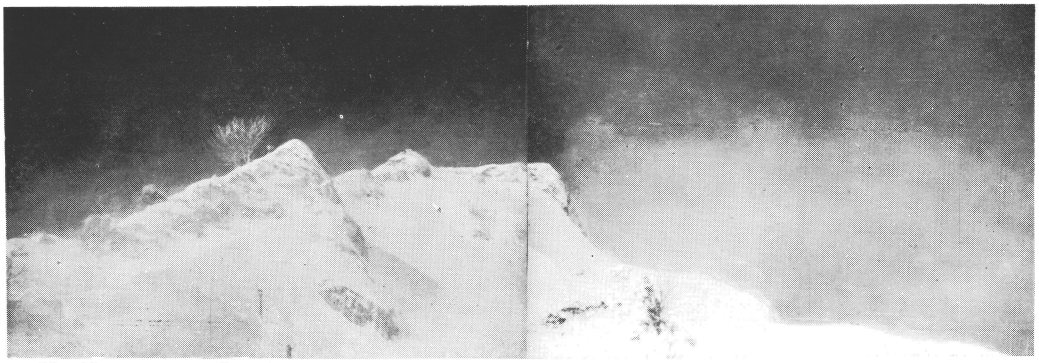


No. 10　1月4日 C3，風が両側から吹くところはナイフリッジとなり片側から吹くところは雪庇となる．晴れるときは雪庇が吹雪の時とは反対側にできる.

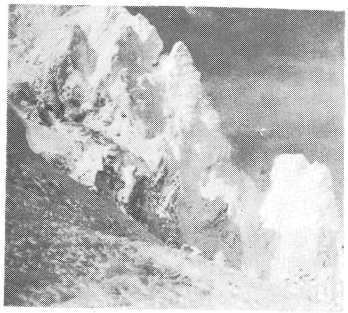


No. 13　1月4日，C2，温暖前線が近づき波状 Sc が押しよせて来る.

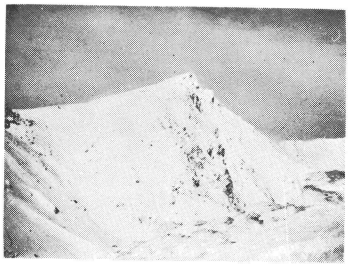
No. 11　1月4日雪洞からの眺め暖域の晴れで下は雲海となりその上に富士山 八ツ岳 南ア迄見える．稜線の風下側には積雲が発生しはじめる．八方尾根 不帰東稜 槍北東稜 杓子正面バットレス手前の杓子沢では後に明大，千葉大が二重遭難で5名を失った



No. 12　1月4日 C3，第1岩峯附近の雪烟，左手のものは Ci 状，右手のものは Fc 状をしている.



No. 14　1月4日
樹氷に蔽われた杓子岳



No. 15　1月4日，雪に埋まった白馬大雪渓 白馬本峯

（大井正一写真）